

授業研究の様子（E S Dの視点に立った能力や態度を育成するための手立てに沿って）

＜導入段階「それぞれの施設について分かったことをまとめ、本時のめあてをもつ」＞

3・4人のグループを作り、話し合いながら答えていけるようにする。全員が発言できるよう、グループの中で毎回違う児童に発表させるようにする。

＜交流と協力＞

見学してきた場所がどんな施設だったかクイズ形式で出題し、各施設ごとに児童の答えを板書したり、写真を貼ったりした。



○ 見学の際に一人ひとり分かったことをメモに取っていたので、それを見ながら発言することができた。見学した順に1つずつクイズを出していったので、どんな施設だったかよく思い出すことができた。

● 全員が発言できるようにグループを作ったが、答えが分かった児童が次々と発表してしまい、話し合ったり、一緒に考えたりする時間が短かった。

各施設で分かったことをまとめた後、めあてを提示した。

め 給食センター・公民館・図書館はだれのためにあるのか考えよう。

＜展開段階「見学してきた施設がだれのためにあるか考える」＞

「なぜ大きい機械があるのかな。」「なぜこんなにたくさんの本があるのかな。」など、発問を繰り返し、これらが公共の施設であることに気づけるようにする。

＜つながり＞

○給食センター

- ・なぜみんなの家にはないような大きい機械や道具ばかりなのか。
- ・なぜ働く人は深く帽子をかぶったり、エプロンを場所ごとに付け替えたりしているのか。

○公民館

- ・なぜ36年も前からずっとあるのか。
- ・ホール、調理室、視聴覚室、和室（茶室）、会議室など、なぜこんなにたくさんの部屋があるのか。

○図書館

- ・なぜ56424冊もの本がおいてあるのか。
- ・なぜみんなが読めないような難しい本も置いてあるのか。
- ・なぜたくさん読むと賞品がもらえるのか。



→児童から出た意見

- ・ たくさんの人が給食を食べる。
- ・ みんなが気持ちよく過ごせるように。
- ・ 多くの人が利用している。
- ・ みんなが楽しめるようにしている。
- ・ 使った人がうれしい気持ちになるように考えてくれている。



◎ 3つの施設は

→ 自分だけでなくみんなのためにある



- たくさんの発問を用意したことで、子どもたちはみんなのためにこれらの施設があるということに気が付くことができた。
- 3つの見学施設について考えていったので、時間が足りなくなってしまう、児童がゆっくりと考えたり話し合ったりすることができなかった。

＜終末段階「みんながこれらの施設を気持ち良く利用することができるように、わたしたちにできることはないか考える」＞

自分ができることを思いついた児童に発表させる。その理由も発表させる。まず友達の意見を聞いて、なかなか思いつかない児童が自分の行動についても考えられるようにする。



- 「これからはみんなが使っている給食の食器をきれいに使いたい。」「みんなが使う図書館に行ったら、静かにする。」などこれからの自分の行動について考える児童が多かった。
- 「これらの施設がみんなのためにある」ということと、「これからの自分の行動」が結びつかない児童もいた。展開の段階で「みんなとは誰の事なのか」をもっとよく話し合えばよかった。また、生活科ではなく道徳の授業に近くなってしまったところもあった。